

# 株主総会質疑応答記録：製品Xの競争力低下に関する議論

開催日: 2025年6月20日 場所: 本社大ホール 記録者: 総務部

## 1. 概要

2025年定時株主総会において、質疑応答の時間中に、当社の主力製品である「製品X」の市場における競争力低下に関する株主からの厳しい質問が複数寄せられました。本記録は、その質疑応答の主要な内容と、それに対する経営陣の回答をまとめたものです。

## 2. 製品Xの競争力低下に関する質疑応答

### 質疑1：市場シェアと収益性について

**株主A:** 貴社の主力製品である製品Xは、かつて市場を牽引する存在でしたが、最近の決算報告を見る限り、市場シェアの低下と収益性の悪化が顕著です。特に、競合他社の新製品攻勢が激しい中で、製品Xの競争優位性が失われつつあると感じます。この現状を経営陣はどのように認識し、具体的な対策を講じていますか？

**社長（回答）：** 株主A様、貴重なご質問ありがとうございます。製品Xの市場シェアおよび収益性に関するご懸念は、当社経営陣も深く認識しており、最優先課題として取り組んでおります。確かに、直近の四半期では、競合他社による積極的な低価格戦略と高機能新製品の投入により、特に中価格帯市場での厳しい競争に直面しております。

当社としては、製品Xが依然として高いブランド認知度と顧客基盤を有していると認識しておりますが、一方で市場環境の変化への対応が遅れている点は否めません。今後は、以下の3つの柱を中心に競争力回復に注力してまいります。

- 製品力の再強化:** 次期製品Xでは、顧客のニーズを深く掘り下げ、競合にはない独自の付加価値と革新的な機能を搭載することで、製品そのものの競争力を飛躍的に向上させます。
- マーケティング戦略の見直し:** デジタルマーケティングを強化し、ターゲット層へのリーチを拡大するとともに、製品Xの持つ「品質」と「信頼性」といった強みを効果的に訴求するキャンペーンを展開します。
- コスト構造の最適化:** 調達から製造、販売に至るまでのサプライチェーン全体を見直し、無駄を排除することで、製品Xのコスト競争力を高めます。

### 質疑2：研究開発とイノベーションについて

**株主B:** 製品Xが市場で優位性を保てなくなったのは、貴社の研究開発投資が不十分なのではないでしょうか。競合他社は次々と画期的な技術を投入していますが、貴社からは目立ったイノベーションが見られません。将来的な成長戦略として、研究開発にどのように投資し、新たなイノベーションを生み出すお考えですか？

**CTO（最高技術責任者）（回答）：** 株主B様、ご指摘の通り、研究開発とイノベーションは当社の将来を左右する重要な要素です。当社は、これまで研究開発に継続的に投資してまいりましたが、市場の変化速度

に対して、イノベーションの創出が十分でなかった点については真摯に受け止めております。

現在、当社は研究開発体制を抜本的に見直しており、特に以下の領域に重点的に投資を行っております。

- **AIおよびIoT技術の融合:** 製品Xの次期モデルには、AIを活用したパーソナライズ機能とIoT連携によるスマートホーム対応を強化し、ユーザー体験の革新を目指します。
- **環境配慮型技術の開発:** サステナビリティへの意識が高まる中、省エネルギー技術やリサイクル可能な素材開発に注力し、環境負荷の低い製品づくりを推進します。
- **オープンイノベーションの推進:** 社外の研究機関やスタートアップ企業との連携を強化し、自社だけでは生み出せない新たな技術やアイデアを積極的に取り入れてまいります。

これらの投資を通じて、製品Xのみならず、将来の柱となる新製品・新サービスの開発にも繋げていく所存です。

### 質疑3：人材育成と組織体制について

**株主C:** 優秀な人材の確保と育成は、企業の成長に不可欠です。製品Xの現状を見るに、開発部門や営業部門の人材が疲弊しているようにも見受けられます。社員のモチベーション維持や、新しい技術に対応できる人材育成について、どのような施策を講じていますか？

**CHRO（最高人事責任者）（回答）：** 株主C様、ご質問ありがとうございます。人材は当社の最も重要な資産であり、その育成とエンゲージメント向上には積極的に取り組んでおります。製品Xの開発・販売に関わる社員の負荷については認識しており、改善策を進めております。

具体的には、以下の施策を実施しております。

- **スキルアップ研修の拡充:** 最新の技術動向に対応するため、AI、データサイエンス、デジタルマーケティングなどの分野における専門研修プログラムを拡充しました。社内での知識共有を促進する体制も強化しております。
- **キャリアパスの多様化:** 社員が長期的に活躍できるような多様なキャリアパスを提供し、個々のスキルや志向に合わせた成長を支援しています。
- **エンゲージメント向上の取り組み:** 定期的な社員満足度調査を実施し、フィードバックを基に職場環境の改善や、ワークライフバランスを重視した働き方改革を進めています。特に、製品X開発チームに対しては、プロジェクト体制の見直しと増員を検討しております。

これらの取り組みを通じて、社員一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮し、イノベーションを創出できる組織を目指してまいります。

## 3. 今後の対応と株主への説明責任

経営陣は、今回の株主総会で寄せられた製品Xに関する厳しいご意見を真摯に受け止め、今後の経営戦略に反映させていくことを表明しました。定期的なIR活動を通じて、進捗状況を株主の皆様へ透明性高く報告していくとともに、業績回復に向けた具体的な成果を出すことで、信頼回復に努めることを約束いたしました。

---

以上